

授業改善書

科目名	日本史資料講読（古代・中世） および 古文書学
担当者	湯浅 吉美

授業の概要

*方法と目標が類同であり、アンケート結果もほぼ同傾向だったので、2科目まとめて記述する。両科目の相違点は以下のとおり。

日本史資料講読（古代・中世）：訓読・活字化された資料を読む。教職課程「教科に関する科目」に列しているため、主に高校日本史に登場する題材を扱う。

古文書学：文書原本の写真版を用い、翻刻と訓読とを参照しつつ読解する。

授業の問題点

*「古文書学」において、「授業外学習をしましたか」が低い（3.60）。語学や国語の古典に近い性質の科目ゆえ、このポイントが低いのは大きな問題点と考える。

*「質問や発言をしましたか」が低い（3.44/3.07）。履修者の積極性を見る意味では低いと問題だが、例年より少し高い。単純に高ければよいともいえまい—講義科目で質問がむやみに多いのは、わかりづらい／納得できないという批判でもありうる。

学生の授業満足度

両科目とも履修者諸君はなかなか熱心に見受けられた。実際、「授業について評価」の各項目いずれも4ポイント以上なのは、担当者として大いに慶ばしく思う。数値的には満足度90%以上、これはたいへんに嬉しいことである。もっとも、母集団20名以下でこのような数字を出したところで、さしたる意味もないけれど…。

授業改善の課題と方策

* 授業外学習（予習・復習）の励行促進

とにもかくにも、シラバスおよび初回授業で指示しているとおりの予習・復習を励行してほしい。要するに、【予習】題材を前もって眺めておく、【復習】教科書とノートを読み返す、と言っているだけなのだから、何ら難しいことを求めてはいない。それすらしないのは履修者側の怠惰に過ぎないから、担当者として改善する余地はないのだが、それでは身も蓋もないので、何か方策を出さねばならない。やはり、毎年予告しながら実践できずにいる、「指名して読ませる・答えさせる」を履行することが有効であろう。立ち往生を見るに忍びず実施していないが、来年度は心を鬼にしてやってみよう。

* ノートをとることの督励

両科目とも4.5ポイント前後だが、この値は受容できない。こちらの見るところでは2ポイント台に止まるはず。課報員の養成所ではノートをとることを禁ずると仄聞するけれども、大学の講義でそんな無茶な話はない。この課題もまた、当方が何か策を練る体のものではないが、強いて方策をとらば、頻繁に確認の小テストを実施すること、（教養演習で）ノート・テイキングを訓練すること、などが想定される。

アンケートから窺われる課題は、必ずしも当方だけが方策を講ずべきものではなく、むしろ履修者諸君の意識改革に俟つところが大きいようだ。「学ぶ」にあらず、「単位を取る」に終始しているやに感じられ、残念でならない。毎年、そして今年も、素点では平均30前後。「知識・理解」以前に「常識」さえ疑わしい解答も散見される。

その他

今回は自由記述欄に記入されたコメントはなかった（らしい）。

一昨年の「古文書学」につき、黒板に掲げる写真が小さいのでプロジェクタの使用などを検討するとの改善策を示したものの、別の難点を生ずることが明白なので導入していない。やたらに学生の意を迎えるのは、衆愚に墮する虞なしとしないのではなかろうか。